

平成29年度 秋田産業サポータークラブ

企業振興育成WG 活動報告



2018.02.02

活動概要

実施実績	内容
① 05月16日	夢づくりWGと合同開催（定例会）
② 07月28日	定例会
③ 09月05日	定例会
④ 10月16日	定例会
⑤ 11月09日	定例会
⑥ 12月02日	第6回あきた寺子屋
⑦ 01月23日	定例会
⑧ 02月●日	定例会（予定）
⑨ 03月●日	定例会（予定）
⑩平成30年2月予定	秋田 IT Café in Tokyo スタート

■定例会

本年度は8回の開催を予定。県の施策への意見交換や提言。グループメンバーの提案による他組織との連携を探る。

仙北市の地域おこし協力隊小林 裕高氏を招聘し、秋田の団体や企業のニーズをヒアリングし、これからの活動計画の参考とする。

■第6回あきた寺子屋の実施

首都圏在住者に向けた「起業塾」。今回は「秋田で起業を志す人」から「秋田で働く・関心がある人」に対象を拡げて実施。「夢づくりWG」と合同開催（詳細は次頁）

■秋田 IT Café in Tokyoの設立

秋田経済の全体、そしてIT産業やIT人材の活性化を目的に、情報の交流を通じてさまざまな可能性を図り、新しいムーブメントを創る（詳細は後頁）

あきた寺子屋関連資料

平成29年12月2日（土）実施

■実施概要

10:30-17:00

第一部 講演会

猿田真氏 細谷拓真氏 伊藤茂之氏

第二部 ワークショップ・発表会

林真人氏

第三部 パネル・ディスカッション・まとめ

17:00～交流懇親会

一般参加者 20名
講師 3名+1名
企業立地事務所 5名
取材 2社（秋田魁新報社、創生する未来）
運営メンバーなど

総数60名

■告知用チラシ

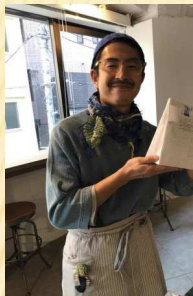


■秋田魁の記事



参加者募集にやや苦戦したが、参加者の満足度は高かった。
会場選定や運営方法などでチャレンジ、新味を出した。
この流れを引き継いで、次年度の実施に向けて検討を開始。

あきた寺子屋 当日の様子



秋田 IT Café in Tokyoの立ち上げ

【目的】

- ◆ 秋田の停滞する経済の活性化のため (IT産業が一番可能性がある)
- ◆ 秋田のIT産業の活性化 (秋田県としても強化に力を入れる予定)
- ◆ 秋田に関係のあるIT人材の活性化

情報の交流を(集う場、学ぶ場、お互いを知る場)を通じて

- 企業; 事業発展の可能性を図る
営業の拡大、協業、人材の確保(プレイヤーとして)
経営、営業、新規の取り組みなどの相談(メンターとして)
 - 個人; 知識の向上、気づき・刺激、故郷回帰
秋田の企業を知る、東京での活動の場を広げる
- ✓ 交流から何か生まれませんか
 - ✓ 東京で企業、秋田に本社を置いた場合補助金等で優遇できないか
 - ✓ 他の業界、業種とのコラボレーション

2月にキックオフ、4月の新年度から本格スタート。皆様のご参加をお待ちしております

チョットだけ次年度の活動目標

- ① 個別の企業の課題解決にWGが役立つことを明確にする
- ② これからの県の産業政策に何が必要か？
更なる有効な手立てや分野などの提言を行う
- ③ 具体的、現実的なケーススタディを産み出す
企業化(起業家)の実現に取り組む

秋田 I T Cafe in Tokyo(仮称)のメンバー募集

平成30年2月2日

秋田産業サポータークラブ、企業振興WGの下部組織として下記のCafeをスタートします！！

1 目的

- ・秋田の停滞する経済の活性化のため（I T産業が一番可能性がある）
- ・秋田のI T産業の活性化（秋田県としても強化に力を入れる予定）
- ・秋田に関係のあるI T人材の活性化

★情報の交流を（集う場、学ぶ場、お互いを知る場）を通じて

企業；事業発展の可能性を図る

営業の拡大、協業、人材の確保（プレイヤーとして）

経営、営業、新規の取り組みなどの相談（メンターとして）

個人；知識の向上、気づき・刺激、故郷回帰

秋田の企業を知る、東京での活動の場を広げる

★交流から何か生まれませんか

東京で企業、秋田に本社を置いた場合補助金等で優遇できないか

他の業界、業種とのコラボレーション

2 運営方法

- ・2か月に一回Cafeを開催(基本的には毎回同じ場所で)
隔月の第〇週の、〇曜日に固定
- ・内容（セミナー方式、企業紹介方式、個人発表方式など）
I T産業の潮流を知る、秋田のI T産業を知る
- ・懇親会（会食：アルコールを入れて）
できるだけ参加者が知り合え語り合えるように
- ・実費個人負担（会費5,000円～6,000円を予定）

3 メンバー参加資格

・特に問いませんが、秋田、I Tということで興味のある方、前向きに参加する方。メンバーの推薦により登録。入会金、年会費等はありません。

4 今後のスケジュール

- ・2018年2月20日(火)18時30分から 都道府県会館地下の上海大飯店
事前打ち合わせ会(kick off会)；進め方、自己紹介など
- ・2018年4月頃 第一回C A F E開催 以降2ヶ月に一回開催

5 事務局 秋田産業サポータークラブ幹事 喜藤 憲一

(メール) QZK10204@nifty.com (携帯) 090-2278-8366

平成29年度 秋田産業サポータークラブ

夢づくりWG 活動報告



2018.02.02

活動実績について

1. 5月16日（火）：企業振興育成WGと合同開催
2. 6月19日（月）
1. 9月19日（火）
2. 12月2日（土）：企業振興育成WGと「第6回あきた寺子屋」の合同開催

主なテーマ

- 2017年2月実施のシンポジウム「**地域創生と文化**」の総括

➤ **本年度の**実行計画**の策定**

- ・秋田県と首都圏との文化芸能分野の連携プロジェクトの推進
 - ・第二回「地域創生と文化」シンポジウムの実施に向けて
 - ・“文化”で地域創生を成功させた全国の成功事例の共有
 - ・秋田県、わらび座...といった秋田の特長を活かす切り口
 - ・秋田文化会議との協力体制の構築
- ⇒秋田の歴史、文化など豊かな資源を活かし、文化・教育・観光などを軸とした新しい事業分野の開拓や若い経営者などと連携し、若者が力を発揮できる環境作りを支援

秋田産業サポータクラブ 地域連携観光WG2017年次 活動報告

2018.02.02

主査：新谷 和弘

(主査代理：佐藤 信治)

平成29年度 活動報告

地域連携観光振興WG

主査：新谷 和弘

(主査代理：佐藤 信治)

活動概要

- 2017年度は、ワーキング会議を4/20、6/16、9/13の3回行った。11/11~12日にかけては大館市において秋田県建築士会大会へのWGから代表者（藤盛、佐藤）が参加要
- 主たるテーマは、大館市「歴史まちづくり」の支援

メンバー

- 新谷 和弘（主査）、藤盛 紀明、栗盛 信太郎、佐藤 健次、動渡部 慎也（企業立地事務所）、齋藤 和彦（大館市建設部まちづくり課課長、Skype参加）、佐藤 信治（主査代理）

平成29年度 活動報告

地域連携観光振興WG 主査：新谷 和弘

(主査代理：佐藤 信治)

● 本年度の主たる活動内容

- 大館市「歴史まちづくり」認定後の支援策と本ワーキングの独自の提案について、地元の大館市との協議を経て議論してきた。大館市の資質の掘り起こしとの周囲の連携策を今後探っていく予定です。
- 4/20 (第4回)第
● 大館市「歴史まちづくり」認定後の動きについて、大館市の齋藤課長より、「大館市歴史まちづくりシンポジウム」(3月18日)の開催結果と「大館市の歴史まちづくり」に関するアンケート調査結果の報告があった。
- 大館地域の古代から近代までの歴史の調査結果発表について、報告がなされた。
- 「大館郷土博物館」の活用についての議論をおこなった
- 6/16 (第5回)第
● 大館市「郷土博物館」の活用についての議論を引き続き行った。
- 市民参加の「歴史まち歩き」は、本ワーキングより参加の打診あり、案検討の結果代表者が参加することとなった。
- 「海洋・河川・街道の観点からの大館」について、報告・提案があった。
- 9/13 (第6回)第
● 秋田県建築士会大会(大館市、11/11~12)へのWGからの参加について、①秋田産業サポータークラブの活動(藤盛会長)及び②旧歴史再生古民家維持WGの成果「増田町、登録文化財」(新谷主査)が発表することになった。
- 大館地域の歴史・産業・文化の調査結果の発表について、議論した。

秋田産業サポータークラブ

副会長・WG主査 新谷和弘 さんの貢献

1 査) 地域連携・観光振興WG

(旧 歴史再生・古民家維持WG)

) 「増田『蔵の再生』基金」創設

2 査) 「秋田県登録文化財所有者の会」設立の取り組み

秋田建築士会大会 街歩きシンポジウム 2017.11.11

街歩きから見た大館市の可能性について



ターゲットを見据えて長く光を放ちうる素材の演出へ

I. 日本人 (団体)

金遣い：安い
宿泊：なし
観光形態：バスで立ち寄り
季節：春から秋
イベント時のポイントでしか訪れず、金遣いはほとんど無い＝市に落ちるお金は低い

II. 外国人 (団体)

金遣い：アジア系は少ない
宿泊：圏域で1泊
観光形態：バスで立ち寄り
季節：春から秋、冬も
イベント時のポイントでしか訪れず、金遣いは日本人よりある＝市に落ちるお金は低い

III. 日本人 (マニア)

金遣い：一部のマニアは、高くてもそこにしかないものを求める、exp鉄道マニア
宿泊：目的を達成するために長くも短くもある
観光形態：公共交通機関
季節：来たいとき、最も旬なとき
個人の満足を満たすために使う金は大きい＝市に落ちるお金は多い＝対象物が深いと何回も来る傾向にある

IV. 外国人 (マニア)

金遣い：EUからの客は教養もあり高くてもいいものを求める
宿泊：はるばる来るので長い
観光形態：公共交通機関
季節：求める季節による
個人の満足(教養を満たすものを提供できれば)のために使う金は大きい＝シビアな選択＝市に落ちるお金は多い＝他国との比較になる

普遍性の持ったものを発掘し・アピールへ

普遍性とは？ 秋田にしかないもの

- ・伝統をもつもの
- ・秋田県北部の街にしかないもの
- ・秋田を代表するもの
- ・秋田に由来するもの
- ・秋田と名のつくもの
- ・この地域を表すもの

第一次の光
多くの人に深く受け入れられるもの

秋田杉
秋田ふき
秋田犬
比内地域
比内鶏
秋田の地酒

第二次の光
一部の人に深く受け入れられるもの

大館
曲げわっぱ
鶏飯弁当
八幡公会館
レールバイク

世界に
アピールする
秋田づくしのコラボ

秋田杉を使った建築
神社は檜などで作るのが一般的だが、匠のおかげ？
神明社・八幡神社・料亭
北鹿ハリストス教会・町並み

曲げわっぱに入った鶏飯弁当
= 1個5000円 = 食べた後は再使用できる
= 曲げわっぱの片口 + NEXT5

秋田犬にふれあえる場
= ここでしか会えない秋田犬
= 秋田杉 (CLT) を活用した施設
= 秋田犬のできたわけは？
に答えられるストーリー

秋田杉建築条例
公共の建物はすべて秋田杉で建築する
その技術を蓄積していく
= 能代とコラボ？

ローカル路線を活用したインバウンド「8字回廊」ツアーの提案





素材の再発見と確認： イイモノはやっぱりいい。 ではどう伝えるか？ を2018年は考えていきたい



フリーズドライ

秋田県産の朝採れむき枝豆をフリーズドライにしました。
枝豆本来の味、風味をぎゅっと凝縮した素材の旨みが楽しめます。

むき枝豆 & 枝豆のペースト

秋田県産の朝採れ枝豆を剥いたもの、ペースト状にしたものを販売しております。
培に適した気候、豊かな土地で育ったおいしい枝豆をお菓子やお料理にご活用ください。

商品名 枝豆のワッフル

柔らかく、口当たりの軽いワッフル生地
秋田県産の朝採れ枝豆を使用した枝豆餡と生クリームをサンドしました。



商品名 枝豆の甘酒

秋田県産の朝採れ枝豆と米糀からできた甘酒です。
風味と米糀本来の自然な甘さが生きたヘルシーな味わいとなっています。



美容の
ための
習慣に

素材に
こだわる
方に

健康が
気になる
方に



End

北東北歴史懇話会

1. 活動状況

懇話会を年間4回定例開催

<主なテーマ>

- ・大館におけるシンポジウムの開催について
- ・中世の北秋田・浅利氏について
- ・東北の地名研究 アイヌ語との関連
- ・湯沢「こまち学研究所」との連携について（休眠状態）

2. メンバー

藤盛 紀明（NPO国際建設技術情報研究所 理事長）
横山 裕司（株交通新聞社 代表取締役社長）
菅原 瑞穂（株プリメイト 代表取締役社長）
中村 陽一（株リフォームジャパン 顧問）
前川十志男（東アジアの古代文化を考える会）
上田 智司（上田法律事務所）
漆原 直子（えみし学会）
西野三紀子（陶芸家）

3. 2017年度 公開研究会 IN大館 III —源義光と大館—

日程：平成29年10月21日（土）10時～16時

会場：大館市立中央公民館 2F視聴覚ホール

主催：北東北歴史懇話会（秋田産業サポータークラブ）

共催：秋田県大館市・山梨県中央市・両市教育委員会

後援：秋田・山梨両県教育委員会・北羽歴史研究会

講演：樋口知志氏（岩手大学教授）

「後三年合戦と新羅三郎義光」

末木健氏（山梨県文化財審議会史跡部会長）

「甲斐源氏と浅利氏」

藤盛紀明氏（北東北歴史懇話会会長）

「大館の河田氏、浅利氏、小場氏」

神成幸忠氏（大日神社宮司）

「浅利氏ゆかりの独鈷の歴史的風致」

嶋影壮憲氏（大館市教育委員会歴史文化課）

「庁舎建設予定地の発掘調査結果」

参加者：約100名

浅利氏と関係深い
山梨県中央市と連
携した講演会
次年度は山梨県
で開催予定

北鹿新聞



秋田の地球熱利用・地域振興WG 状況報告

H30年2月2日
代理報告 菅原瑞穂

当WGは、設立発起人でもある田村主査が長期に亘る病気療養中であることとその他の事情も重なり、今年度は何ら具体的な活動が出来ておりません。田村主査は、現在リハビリに努めておられますが、元のように元気な活動が出来る状態にまで回復されるには未だ相当の期間が必要と思われれます。

上記のような状況ではありましたが、昨年度は下表に記しました内容で秋田市内でシンポジウムを開催する事が出来ました。

今年度も、昨年度と同様に秋田市でのシンポジウムを計画しておりましたが、共催予定のNPO法人あきた地球熱利用事業ネットワークの理事長が交代するなどの事情があり開催が困難となってしまいました。

当WGの活動は、田村主査の経験、知識、人脈に頼る部分が大きく、田村主査の早期回復が難しいとすれば、WGの解散も視野にメンバーと協議して近日中に今後の方向性を決定したいと考えております。

当WGのこれまでの主な活動とその他関連する事項をを下表に纏めましたのでご覧ください。

年 譜

年 度	主な活動及び状況
平成22年	秋田の地球熱利用・地域振興ワーキンググループ設立 主査：田村八洲夫
	秋田県内で具体的な活動を展開する必要から、秋田県地球熱利用・産業振興協議会を秋田市に設立(会員45名：当WGからも5名参加) 翌平成23年NPO法人あきた地球熱利用事業ネットワークとして法人登記(当WGからも5名がそのまま参加)
	男鹿市と上記協議会に協力して、総務省の「緑の分権改革」に応募して採用される (平成22年度～平成23年度) ・関連活動は24年度以降も継続
平成25年	地球熱利用の技術紹介パンフレットを作成して啓蒙活動
平成26年	地中熱の農業利用・地域再生を主としたパンフレットを作成
	NPO法人主催の「ジオパワーで湯沢の街づくり」シンポジウムに協力
平成27年	芝浦工業大学の公開講座との共同シンポジウム「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」を同大学の芝浦キャンパスで開催
	すみだ六次化支援工業会(当時)に参加、再生可能エネルギー分野で同会の活動(現、一般社団法人 すみだ六次化支援ネット)
平成28年	5月頃？、田村主査病気入院
	「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」の第二回シンポジウムを、平成29年1月16日、秋田市内のラポールみずほ苑に於いて、NPO法人あきた地球熱利用事業ネットワークと共同で開催
平成29年	前年度に続き、「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」の第三回シンポジウムを、計画していましたが共催予定のあきた地球熱利用事業ネットワークの理事用交代などの諸事情があり開催ができなかった。

秋田杉活用と地域活性化WG 2017年度活動報告

2018年2月2日
WGリーダー
最上 公彦

秋田杉活用と地域活性化WGの今年度の活動

平成29年6月30日に今年度第1回WGを能代市で開催し、これまでの天然秋田杉古木の有効活用に関する成果を現地(能代市)作業部会とWGグループ(東京)でそれぞれ検討を進めることにした。

①現地作業部会の活動

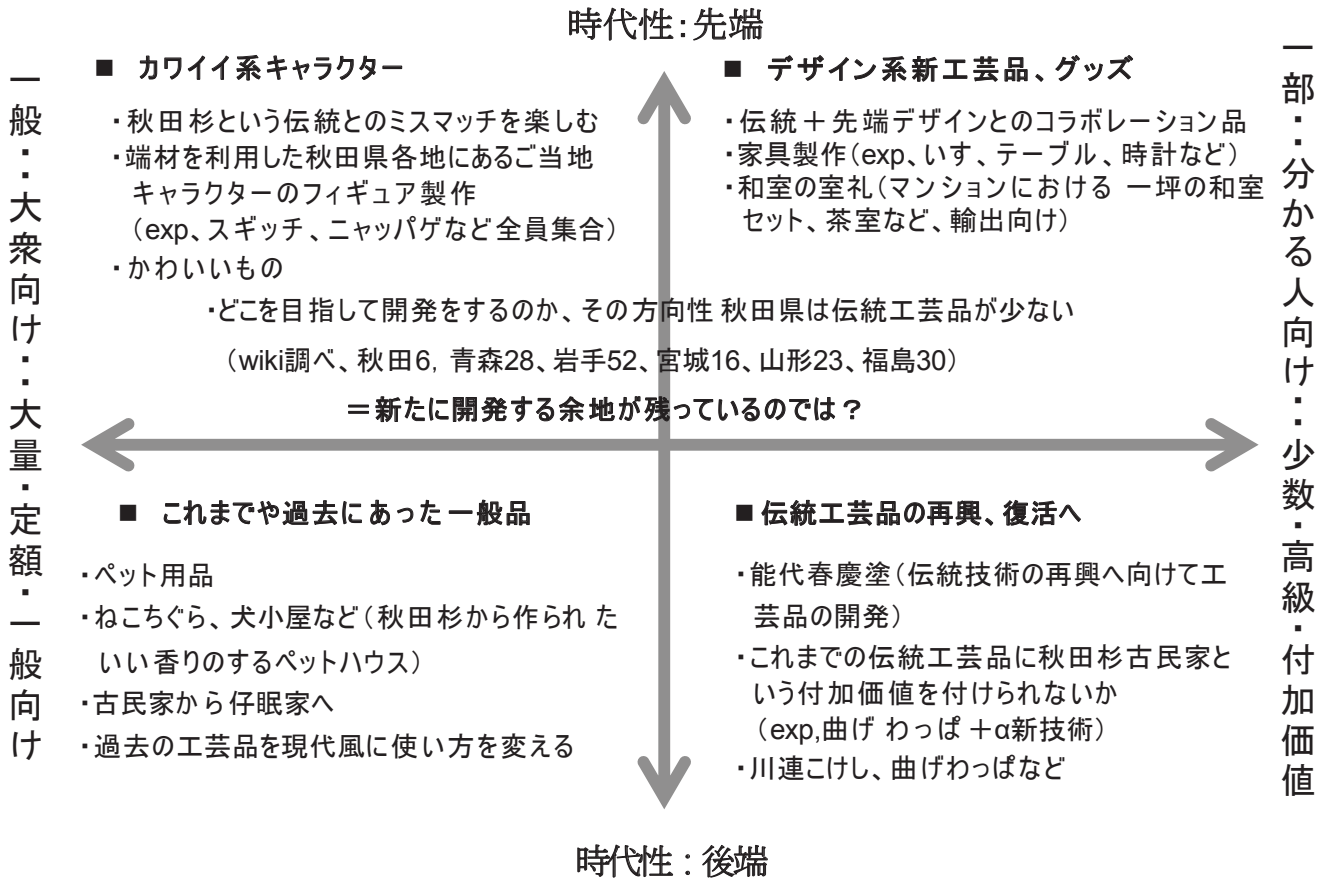
- ・天然秋田杉古木の民家から部材を取り出して、作品価値判断の確認実験を行う。
- ・天然秋田杉古木認定制度について地元の大学・研究機関、高校、行政、地元林業関係組織に説明し、認定制度確立に向けた準備を開始する。
- ・9月22日、10月10日、11月17日と12月7日、合計4回現地作業部会を開催した。

②WGグループ(東京)の活動

- ・事業化に向けて置き和室の市場性・海外展開の可能性の検討を進める。
- ・天然秋田杉古木認定制度確立のため、木材認定制度の現状調査を実施する。



天然秋田杉古木から作られるの作品(製品)の方向性



天然秋田杉古木の材料価値判断および認定制度

◆ 天然秋田杉古材のカナ掛けを行い、古材であっても美しい木目、匂いを再現できることを確認した。



集めた天然秋田杉の古材



カナかけの柎目

◆ 天然秋田杉古木の認定制度に関する現状および事例調査。

- ① 一般社団法人住まい教育推進協会
 - ・「古民家簡易鑑定・古材鑑定士」制度



- ② NPO 古材文化の会 (京都市)

- ・古民家調査・再生、古材バンク

- ③ 全国循環型解体支援協会

- ④ 株式会社アステティックスジャパン

食と美と健康WG

活動報告2017

2018/02/02
千葉 良子
TKP新橋汐留ビジネスセンター

テーマ

食

美



地域資源を活かす



健康サポートビジネス

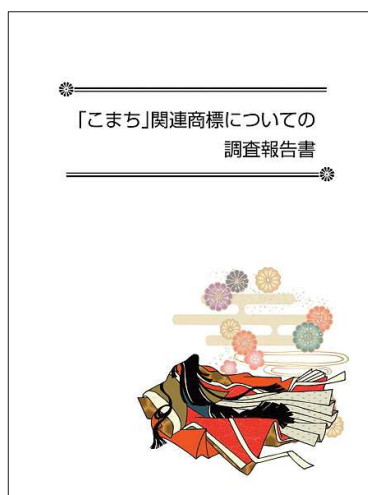
目標

- 「こまち（小町）」商標調査
- 北秋田&八幡平地域の情報収集
- バイオ健康食品と医工連携分野との関わり方

食美健WG

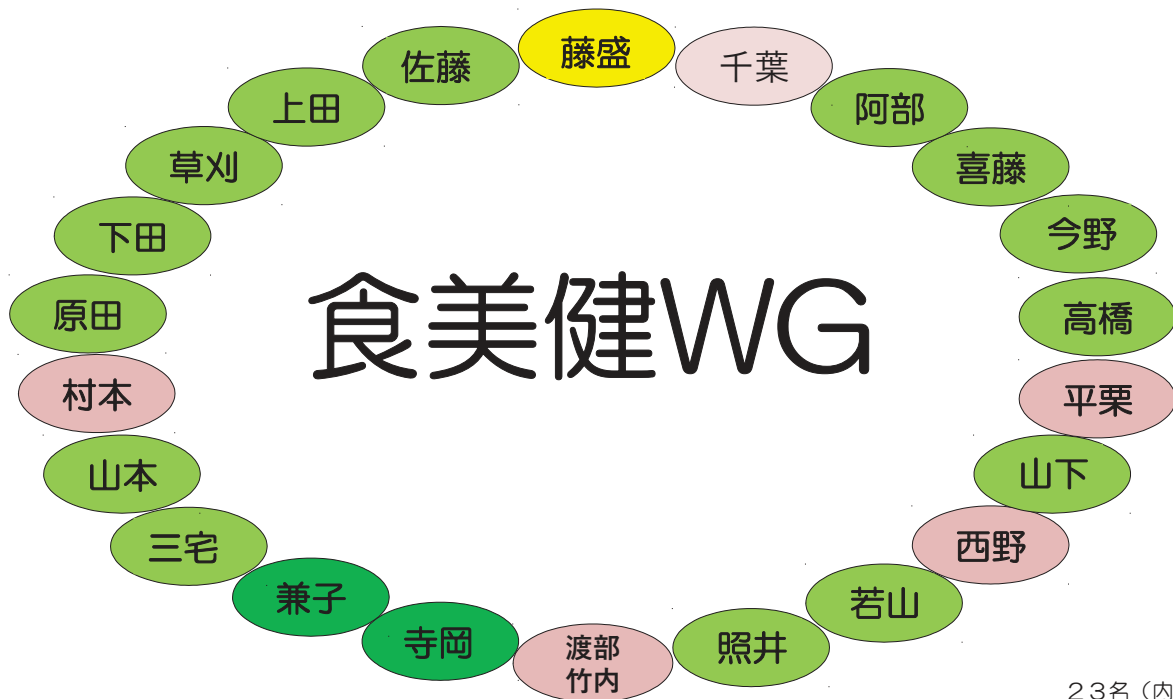
活動と成果

- 会議（計5回）
 - ◆ 5月8日、7月5日、10月2日、12月15日、1月15日



食美健WG

メンバー

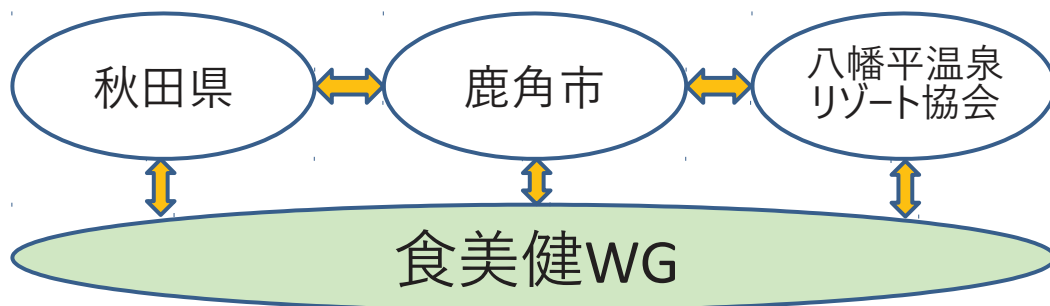


23名（内女性6名）

食美健WG

2018年度にむけて

- 蒸ノ湯再建プロジェクトを推進する
 - ◆ 県・地元自治体・関連団体との連携



- 北秋田地域資源の活用を検討
- 医工連携分野との関わり方を再検討

食美健WG